

令和8年度第1回川崎市勤労者福祉共済運営協議会議事録

1 開催日時 令和8年8月25日（火）13時30分から14時40分まで

2 開催場所 川崎市役所本庁舎復元棟2階202会議室

3 出席者 委員 辺見会長、門倉副会長、南委員、秋元委員、八木委員、板橋委員、稲富委員、奥村委員、滝原委員、平井委員、鈴木委員、齋藤委員

計12名

（欠席：大山委員、林委員、山田委員）

事務局 加藤担当課長、箕輪課長補佐、中山担当

4 議題

（1）令和7年度事業報告について

（2）令和8年度事業概要、事業予算について

（3）勤労者福祉共済事業 中長期の展望について

5 公開または非公開の別 公開

6 傍聴人の数 なし

7 発言の内容等

（1）会長のあいさつ

本日は暑い中又お忙しい中ご参加いただきありがとうございます。

こちらの福祉共済は中小企業には非常に良いしくみでございますので、皆様の活発なご意見をよろしくお願いいたします。

（2）令和7年度事業報告について

— 事務局説明 —

辺見会長	特徴的な企画に人が集まっているのは非常に良いことだと思う。
------	-------------------------------

（3）令和8年度事業概要、事業予算について

— 事務局説明 —

辺見会長	基金の余剰が発生したのはどういった理由か。
事務局	給付金の支出が見込みを下回ったため余剰が発生した。
辺見会長	Xに関するキャンペーンは実施したか。
事務局	昨年度は、フォローしていただくとギフト券をプレゼントするキャンペーンを実施した。
辺見会長	ベネアアカウントの登録についてもXで周知することで、より広く認知されると思うので、実施したほうが良いと思う。ベネアアカウントに登録するとサービスの幅も

	広がるので、Xを活用してもらいたい。
鈴木委員	基金のしくみについて、掛金収入が減れば基金を取り崩していくということか。一般財源についても、昨年度より減少しているが、不足する場合には基金を取り崩し、非常時に備えているということか。
事務局	おっしゃる通り。過去3年間そのように運営しており、システム改修が5年に一度あるので、その際にも基金から取り崩している状況。

(4) 勤労者福祉共済事業 中長期の展望について

— 事務局説明 —

稲富委員	政令指定都市の運営状況について、広島市の会費に「～」との記載があるが、これはどういった意味か。規模に応じて会費を変えるという考え方もあると思う。
事務局	すぐに回答できないので、確認する。
八木委員	調べたところ、会費を一括で支払うか月払いにするかによって異なるようだ。
門倉副会長	税理士からの紹介について、税理士のセミナーに出向き、キャンペーン等のチラシを配布したとあるが、一人の税理士に対して行ったのか。
事務局	税理士の方が集まるセミナーがあり、そこで事業の説明、チラシを配布した。福利厚生事業に取り組めていない、探している、という方がいれば紹介してほしい旨を伝えた。
門倉副会長	社労士は訪問先が結構あるので、キャンペーンでプレゼントがもらえる等があればもう少し紹介できると思う。
事務局	キャンペーンは紹介いただいた会員数に応じて、ギフト券を進呈するものとなっているので、ぜひご紹介いただきたい。
辺見会長	会員数の増加推移をみると1社に1人の従業員という事業所が多いのか。
事務局	紹介いただく事業所によるが、昨年度は1社に1、2人の従業員という事業所が多かった。社労士から紹介いただくのは少数の事業者が多い。 1社で従業員数が多いのは、社会福祉法人などの団体となっており、そういった団体の会合にも一昨年度から参加している。急な加入は難しいが、年に1・2団体入ってもらえているので、継続していきたい。
奥村委員	基金の運用について、定期預金で回してるとのことだが、金利もあがってきており、より安全に運用できないのか。
事務局	基金の運用については、市全体で合同運用しているため、いただいた意見は担当部署に伝える。
平井委員	ベネアアカウントのサービスが利用できることは周知しているのか。
事務局	ガイドブックにベネアアカウントの登録方法を案内している。昨年度は、会報誌5・6月号において周知している。周知が足りていないところがあるので、引き続き行っていきたい。
奥村委員	最近、自然災害が多くなっているので、災害に対する貸付の利率を下げたり、もっと使い勝手のよいものにできないか。
事務局	利率は、昨年度から半年ごとに変更が生じている状況。サービスの内容は、中央労金

	を通じて貸付を行っているので、新しいサービスができないか調整を行っていきたい。
鈴木委員	最低でもどのくらいまで加入率をあげたいか目標値はもっているのか。
事務局	現時点では明確な数値目標はないが、事業所数は 1,200 数台を維持していきたい。
鈴木委員	市内にある中小企業数と比べて共済の加入事業所数はどの程度なのか。 脱退の理由として倒産が多いが、経営相談等の業務があってもよいのではないか。
事務局	倒産等における事前相談であれば金融課等に行かれると思うが、そういった相談があった場合は、紹介ができるような体制にしたい。 市内の中小企業数からすると加入事業所数は少ないと思う。加入数が伸びない原因の一つとして、川崎商工会議所においても同様のサービスがあり、そちらに加入していることが挙げられる。今後、川崎商工会議所と運営状況等について意見交換する機会を設け、協力できる事項があるか検討していきたい。
平井委員	行政では X の発信が多い。かわさきハッピーライフではカワスイバックヤードツアーや防空壕きくらげ体験等の企画が人気とのことで、文字での発信ではなく、Instagramで画像を用いた発信ができるとよい。
事務局	他の手法も検討していきたい。
辺見会長	様々なご意見ありがとうございました。

— 閉会 —